



兵營日記

平町 秋月後一 郎

多少とも思想する習慣を始めたのであらう。見よ！
 持つてゐる人ならその人は初年兵と二年兵との顔面の
 必ずや旅人でありコスモボ相違を、兵營は何と云ふ素
 リタンであるに相違ない。晴らしい修練場であらう。
 「人間は自然で最も可憐い」
 庭にすきない、しかもそれを
 は考へることの出来る庭で
 ある」とはパスカルの光彩
 ある言葉だが何だか教はれ
 た様な気がした。パスカル
 の庭は今、練兵場で馬に乗
 つて砲車を曳いてゐる。や
 がて教官殿の吹く角笛が聞
 えて来た、演習開始！再び
 馬上の人となる

新 歌 壇

○紫陽花の花 里 木 行 友
 『紫陽花の花』を詠んで居る
 雨晴れの庭に句へる紫陽花の花を見て居る
 鑑別を
 ○仄かなる思ひに似たれうつすり紫陽花の
 花の花
 ○病みはけし身に裏庭をさまよひぬ紫陽花の
 花句へるまよに
 ○紫陽花の古きみ寺の塀ぬちに咲き静もりて夕
 暮れにけり
 ○この朝も目に映えしあさいの花おのも
 に露もも居れり（評。素直なるがよし）

小 山 田 滋 選

六月旬會
 限外吟遊題一吟 五撰
 苗買の荷をからみある文化村
 苗買の聲聞く朝の目覚めかな
 苗買りの日陰静かに歩みけり
 腰たたくひまなく田植進はれけり
 待ちどほり母も出てけり初田植
 草刈の唄はからに流れ来し
 草刈りては星を背にもとりけり
 草刈りては星を背にもとりけり
 草刈を日課としたりと校前
 紫陽の山に草刈の父子かな
 素 城 華 芳 欽 一 霞
 人 月 長 月 一 霞

晴耕雨讀

（28）

花のあまたかな
 人の見よと携ひ来る一
 浪花の含露、剃髪の前も
 含露といひ剃髪の後も含露
 といふ、この含露を捨てど
 含露をか求めん
 含露々々として更に含
 露なし、ひとたびは露
 題像文
 今この繪よりも劣り
 めらむものぞと
 わさしく且つなつかし
 暫く見とれぬ内に、傍
 童の口がなくなつてよみける
 命綱が馬にはは、夜
 は出て、秋の戸扇の併
 や捜さむ
 落柿舎先生挽歌
 文をば略して歌のみ左に
 しむべし、あ、あ、かな

行發日八十月七
 日曜祭
 日曜祭
 日曜祭

拈華微笑
 網にかかった養
 當分照つたり降
 つたりの天候で
 す。空の打診に
 氣を慮らす各派
 女の手は踊る
 夏。スポーツの
 明後廿日土日に
 入り公愛難の
 日近づく

御存知ないのですか、私共
 十三日南町橋本喜七氏に
 落札した
 教育召集入營。警中大井
 川、平南駒場兩配屬將校は
 來月上旬若松で開かれる教
 育召集に、駒場將校は先
 月十六日から二十八日迄仙
 臺工兵第二大隊に開かれる
 教育召集に二應ずる
 第一。珠算競技。平第一校
 第二。十回球算競技は来る
 二十六日午前十時から開か
 れるが各組四名宛四十四名
 で問題は讀上算視取算であ
 る

四倉通信
 山間部田舎。四倉町
 山間部田舎の水田は畑々
 野菜栽培の外無の田舎夫々
 念したが一昨十六日の慈雨
 にて全部の田舎が出来たと
 キャンプ開始。二十日の
 土用入りで當て込んでゐる
 四倉海水浴場には既に田村
 中學校等のキャンプが五六
 組入り込み順に夏の海濱情
 景を見せ初めた

社説の今日
 山にわく雲
 ひかる雲、語りつかれ
 てふたり見る雲
 清水 信
 ハンモックをさげり帯
 の下がりある

劍火無情
 津屋 義人作
 菅野 祐作 齋
 水戸城の混戦(一)
 元治元年八月の初旬、二
 百數十名の水戸藩士は、本
 國水戸に集結して、武州
 小金井に集合した。
 「結城藩の市川三左門、
 朝比奈彌太郎の横暴を、江
 戸表の君公に上申しやうか
 左なくば丸丸稲之右衛門の
 桶籠る、あの筑波山に合し
 て俱に水戸城の市川を討た
 うか」
 此議決せずして、江戸と
 筑波の二説となり、徒らに
 日を送る所へ、武田耕雲
 を追つて来た。
 「多数上府して君公に上申
 は懇かでない。又筑波山の
 暴舉に與するは、愈々以て
 宜しからぬ、拙者に従つて
 水戸へ入城さつしやい。拙
 者市川及び朝比奈を説き、
 田丸藤田と和睦し、勤王の
 大義により、一致協力する
 ことに取極めらる」
 三百近い藩士は大に喜ん
 で耕雲について随行した
 一方城内の市川黨は、昨
 今一向に意氣昂らぬ。筑波
 山の田丸黨が、益々猖獗な
 るで、近隣諸藩の兵を苦し
 めた揚句、雖ては水戸城へ
 押寄せ来はせぬかと疑心暗
 鬼の折柄、突如として「御
 注進」があつた。
 「それは小金井の脱士の出
 其後の動靜を探りに出した

大塚肉店へ
 七月二十一日は
 土用丑の日
 牛肉の御用命は品自
 慢の
 大塚肉店へ
 電話六六七番

出 船
 逸 名 子
 姉さんのせた
 黒い船
 見ぬくなつた時
 港の街にも
 灯がついた。
 もぐら
 木村 明月
 芋虫ごうごう
 もぐらもぐら
 もぐらもぐら
 赤土もちやげて
 ころげでて
 つつちらをつら
 どのこいしよ
 お日様、まつた
 もぐらもち
 もぐらもち
 おどろいた。



大 貞
 平町田町
 電話四百三十三番

新製品發賣!!!
 コーヒー通待望のコーヒー...
 シヤバ...
 ジョア...
 グアマ...

西村屋藥局
 北里研究所製造疫病内服ワクチンを
 まづ豫防に經口免疫の
 ○毎年六月始めより十月と申します
 ○死亡率統計百人中六十五人以上として
 居ります

生花教授
 池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御教授いたし
 ます。お遊びがてら御出で下さい。
 平町四丁目和泉屋旅館
 須藤まつ子の

耳鼻咽喉科専門
 醫學士 鈴木 正 男
 平町田町(電話五八番)
 藤田女學校前

鈴木醫院
 日本齒科
 醫學士 鈴木 喜 政
 内郷村高坂養病院前

阿部材木店
 建築材 入 阿部材木店
 建築材 入 阿部材木店
 電話四九四番

當分曇り勝ちが續かう 明後廿日の土用入り就て 小名濱測候所空の打診

今年も愈々明後二十日から土用に入る。果して曆面のダイアグラム通り暑熱の世界が来るであらうか？、次は小名濱測候所の土用打診
去る十日頃から北東の風が吹き初め所謂梅雨の形となつた爲日中が明るくなる丈で朝晩は雲が低く兎角曇り勝ちな天候が続いたわけである。目下は琉球の南方に颶風が起り小笠原方面に高気圧が根を張る餘地が無く依然北東の風が連綿してゐるので雨が續くと云ふやうな事は無いとしても矢張り何れかと云へば曇り勝ちで急にカラリとした空を見せまいと観測される。

主將會議に臨んで 徐に膽を練る

縣下中等學校体育大會のトンが開かれるので警中でツブを切る野球大會は愈々は樋口教諭が小井戸遊樂場を來る二十三日から三日間平商で矢野校長が渡邊捕中にて開催されるが二十日午後四時四十分二日は同校に於てキヤンパで出発する

大會の豫行試合に 警女軍幸先を喜ぶ

警女軍球部では愈々大會も切迫したので去る十五日平第一職員を連へ一戦を交へたが左の如く戦績非常に優れてあつた

平商生天幕生活 愈々プラン決定

平商三年生以上の今夏休中天幕生活は左の如く三回に亘つて行はれる事にプラン決定した

盛夏中減便

廿一日から平局で平局に於ける市内取集イロハニ四號便、同配達ホヘト

石城の人々

歸幽直前の坦山和尚を断たざるを得なかつたので、併し弟子の僧も亦極く相牽引するが如く女人師僧の如き無邪氣なる境地と交はることができたのでを理想としてこれに到達せんとする。然らば弟子の高僧として進んでゐたので、故に自分の及び難

出陳畫製作

警中美術部では九月十八日の滿洲事變記念日に若松二十九聯隊で催される展覽會に出陳すべく目下近藤教諭指導の下に製作に精進して居る

警中花形選手出場

第三回中等學校關東北、東三號便、市外取集及配達のため北海道競泳大會は五月六日の兩日仙臺二高プールで九月三十一日迄市内取集松ヶ岡公園池に放つことに

第二に大龜

夏休中の動物手當科教材としてカナリヤ、城控院で開廷される事にリ、インゴその他小鳥類をなつた

掃立増加から 懸念さるる桑不足

蠶業組合平支所では高き夏秋蠶の品種統一上養期を桑葉の増産増加を見越して桑葉の調製に腐心して居るが夏秋蠶は秋蠶は十五、六日目の給桑を要し現下の桑園では當然不足を生ずる模様で憂慮されて居る

六兒を殘し チフスで入院

隣人が救助出願内郷村は炭鑛を控へ失業業者貧困等人口稠密な關係で夏に於てチフスで入院する者比較的多く今午に入つて五昨十七日午後十一時頃小名濱に掛つて居る怪漢

炭鑛行進曲 賞募集

前時迄に集合地小名濱にいた六時から同町小學校庭に於て炭鑛入選賞金

平署員非常召集

深更十一時發令して冷涼の小名濱海岸に集合

約四割が近視眼

警中生の検査成績に就て吉田校醫は語る

盗運捕く捕はる

深夜の祠前で賽銭叩き非常召集の警官が検舉

一味七名に懲役

内郷の銅線泥へ判決

吉田校醫は語る

戦近學生の近視眼が激増し此程執行した警校検査成績に就て見るも全校生徒の約四割近くが近視眼に當つて居る

炭鑛入選賞金

前時迄に集合地小名濱にいた六時から同町小學校庭に於て炭鑛入選賞金

預金利子引下

縣下銀行同盟臨時總會、決議二ヨリ昨十七日ヨリ預り金利率左ノ通り

夏例賣出し

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日

吉田眼科病院

平町紺屋町

江戶川

七月廿二日は土用の丑の日